寄付講座
医学教育学講座（医学教育センター）
活動のまとめ

平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月

ごあいさつ

本学では現在医学教育改革プログラム「150通りの選択肢からなる参加型臨床実習」に沿って医学部内の教育制度を改革しています。これは、文部科学省が平成24年から開始した大学改革の公募事業の1つで、日本が明治以降、医学分野の教育制度をあまり改革しなかったために世界的には孤立した存在となった現在の医学教育を、世界標準に修正することを目的としています。本学では、これまでに1コマ90分であった授業時間を60分に短縮し、4年次後期から臨床実習を開始できるようにカリキュラムを改訂してまいりました。

平成25年度には JA 長野厚生連からご寄付いただいた資金を活用してハワイ大学医学部 SimTiki シミュレーションセンターで多くの教員に本格的なシミュレーション教育の研修を受けさせるとともに、学外の臨床実習協力病院でも学生の参加型臨床実習が円滑に行なわれるようにそれらの病院の医師に対して医学教育ファカルティ・デベロップメント（講習会）を行なってまいりました。学生教育では学生が参加型臨床実習に円滑に取り組めるように、臨床実習前の準備教育の時間を大幅に拡充し、医療面接の仕方やカルテの書き方を入念に訓練してまいりました。また、電子化で他人のカルテを容易に閲覧できる時代となったことに対応して、学生には患者のプライバシーを尊重するための倫理教育にも力を入れました。その甲斐あってか、今年の客観的臨床技能試験（OSCE）では明らかに不合格者が減少しました。

平成26年度からは新しい制度のもとでいよいよ4年次生が9月から臨床実習を始めます。彼らは最初の1年間で大学内の診療科を2週間ずつローテーションして基本的な診療技能や態度を学びます。2年目には医学教育センターで事前に用意した全部で150通りのコースから自分に最適なものを選択し、1診療科に1人ずつ配属して6診療科をそれぞれ4週間ずつ実習します。さらに、6年生ではこれまで通り選択臨床実習を3コース行ないます。その平成26年度の選択臨床実習では本学初の海外での臨床実習先としてハワイ大学医学部の実習病院であるカピオラニ医療センター（小児女性病院）に本学学生を受け入れてもらうことになりました。

これらの充実した臨床実習のプログラムで、学生らにはさらに臨床での問題解決能力を高めてもらいたいと考えています。医学教育学講座を開設して4年が過ぎました。本講座はここにご紹介申し上げたように、本学の医学教育に大きく貢献しております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

医学教育センター
医学教育学講座 教授
多田 剛

教員紹介

教授　多田　剛（右から2番目）

講師　森　淳一郎（左）

助教　黒川由美（右）

助教　清水郁夫（左から2番目）

新任教員紹介

黒川由美

平成25年7月より信州大学医学教育学講座の助教として赴任いたしました。出身は松本、平成5年に新潟大学を卒業し、同年信州大学小児科学教室へ入局いたしました。主に小児血液・悪性腫瘍・出血性疾患の治療・研究に携わり、平成9年にチェルノブイリでの骨髄移植による白血病治療チームに参加し、平成14年に信州大学大学院医学研究科博士課程を修了し学位を取得後、平成16年より米国カリフォルニア州スクリプス研究所免疫部門に4年間「がんの転移」をテーマに研究留学をいたしました。

現在、信州大学医学部に在籍中の学生さんは平成5年前後生まれの皆さんでありますが、小児科医として私がスタートを切ったあの時、ちょうど生まれたての赤ちゃんや可愛い盛りの乳幼児だったのです。あの可愛らしくて小さかった子供たちが、もう自分の人生を決めて「医師になろう！」と日々努力している姿を目にするたびに、大変感慨深い気持ちになると同時に、学生の皆さんの真剣な横顔に「がんばれ！」と心の中で応援せずにはいられない、そんな毎日を過ごしております。微力ではございますが、精一杯務めを果たす所存でおります。

ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

清水郁夫

平成25年4月より当センターに赴任いたしました。平成16年に本学を卒業した、いわゆる臨床研修制度の第1期生です。専門は内科、血液内科で、研修修了後は県内施設で研鑽を積んで参りました。その間に研修医教育に積極的に関わり、研修医向けの院内カンファランスを立ち上げるなどの活動を行い、また研修医との洋書輪読会の成果を「セイントとフランシスの総合外来診療ガイド」(2009年)「ワシントンマニュアル外来編」(2012年)の2冊の訳本にまとめました。卒後研修への関わりを通して医学教育という専門領域への必要性を自覚するに至り、当センターでの職務に巡り会った次第です。母校である本学の教育をよりよくする営みに直接携われる機会を得られたことに感謝しております。

現在は臨床実習改革やスキルズラボを用いた教育機会の提供などに関わっているほか、臨床推論を教える教育手法の開発に取り組んでいます。さらに平成26年5月からオランダ・マーストリヒト大学の大学院課程に進学し、医学教育学の知見を深めて参ります。

本学、そして長野県の医療がさらに大きく羽ばたいていくよう、教育という立場で寄与することができれば何よりと考えております。宜しくお願い申し上げます。

Ⅰ.カリキュラム改正

近年、米国で臨床実習を希望する外国人医師に対して研修資格を認定するEducational Commission for Foreign Medical Graduates(ECFMG)が、2023年からは国際認証を受けた医学部出身者の見に米国の医師国家試験受験資格を与えるとの声明を出したことを受け、日本においても国際認証を目的に、急激に医学教育改革、特に臨床実習改革が進められている。さらには、108回医師国家試験においても、例えば「点滴における三方活栓の位置」を問う問題や、単に疾患と治療薬を結び付けるのではなく、例えば腎不全を持つ関節リウマチ患者への治療薬を問うなど、患者の状態を把握し、適切な判断を求める問題が出現されるなど、臨床実習を重要視する傾向が強まっている。

こうした中、本学においても、医学教育学講座が中心となって文部科学省 GP「グローバルな医学教育認証に対応した参加型臨床実習」を利用し、グローバル化に対応した医学教育を目指している。以下に、本学が主体的にかかわってきたカリキュラム改正について列挙する。

１. 3年次におけるカリキュラムの変更

臨床実習の時間をより長く確保し、実臨床に利用できる知識、技術、態度を積極的に身に付けてもらうことを目的に、平成23年度入学生から新カリキュラムを導入している。今年度は、3年次生の授業が新カリキュラムに変更された。3年次新カリキュラムの特徴は、これまでの様に基礎/臨床をくっきり切り分けておらず、臨床の授業を受けつつ例えば病理学各論の授業を受けることにある。本年度の時点では、必ずしも両者の連携が 100%うまくいっているとはいいがたいが、双方の授業を同時期に受けることで学生の理解は深まりやすくなったと考えている。

２. 4年次生および新臨床実習カリキュラムの制定

医学教育認証に対応できるよう、臨床実習の見直しを主な柱としたカリキュラム改革を引き続き推進した。現在は 51 週間の臨床実習を行っているが、4 年次後期からの72 週間に延長することとした。その準備のため、今年度は新カリキュラムにおける4年次生の授業内容およびBasic Clinical Clerkship（Basic C.C.）の予定を制定した。当初、Basic C.C.は36週間かけて学内の臨床実習を行う予定であったが、最終的には 38 週間かけて行うこととなった。内科各科の実習では、学生の診療への参加度を深めるために、教育協力病院を主な実習の場とするようにした。また、附属病院の総合診療科開設に伴い、同科をBasic C.Cに含めた。また、Basic C.C.終了後（5年次夏）には、進級を判定する目的にて試験（筆記試験および実技試験）を行うことが確認

された。これらにより、新カリキュラムに基づいた臨床実習を来年度の 4 年次生から実施する準備が整った。

３．「150 通りの選択肢からなる参加型臨床実習」

文部科学省の公募 GP に採択された当センターの取組「150 通りの選択肢からなる臨床実習」を平成 25 年度より実施している。本年度は、各教育協力病院と実習について協議を重ね、また教育的に優れた教員の推薦を受けた。これらをもとに「150 通り」実習カリキュラム案の概略を作成した。さらに県内各地の教育協力病院を巡回し、指導医講習会（出張 FD）を実施して診療参加型臨床実習の主旨を説明すると共に、教育協力病院の教育水準を担保するよう活動した。学内での教育に於いても、シミュレーション教育や教育的動画ツールの導入など、診療参加型臨床実習を支える体制の整備に務めた。

各教育協力病院からいただいたご意見や外部評価委員会でのご評価などを踏まえて事業を引き続き推進し、来年度中に「150 通り」カリキュラムを完成させる予定である。

（参考資料あり）

Ⅱ.学生教育

今年も第 108 回医師国家試験が 2 月 8～10 日の日程で行われた。国家試験が 3 日間で行われるようになった平成 13 年以降問題数は 500 問となっており、その合格基準は、

(1)必修問題 160 点/200 点以上
(2)必修問題を除いた一般問題 134 点以上/200 点
(3)必修問題を除いた臨床実地問題 427 点以上/600 点
(4)禁忌肢問題選択数3問以下

とされている。このように、学生には高い知識レベルが要求されているが、前述のように臨床実習を重要視する傾向が強まっている。また、学生には、知識レベルに加えて医師となるために必要な技術やコミュニケーション力、倫理観も身に付けてもらう必要がある。こうした中、本学においてはより効率よく知識を身に付けられる少人数学習を導入しており、また、卒業前には医師として必要な技術等を身に付けたかを評価すべく卒業前 OSCE（Advanced OSCE）を導入している。

１．少人数学習（TBL：Team Based Learning）における変更点

現在本学においては、Team Based Learning(TBL)という手法で少人数学習を行っている。TBL は、ク荻が他の授業比べ知識習得の効率がよく、またチーム医療に必要なコミュニケーションスキルを身に付けることができる。本学では、2 年次および 4 年次（3 年次の冬より開始）の学生に TBL を導入している。2 年次では症例を通じて医学を学ぶ必要性を認識さえることに主眼を置いて TBL を行っている（臨床医学 TBL）。

4 年次では、病態生理を通じて臨床医学と基礎医学の双方を同時に学習させることに主眼を置いている（臨床医学 TBL）。両学年とも、学生が学習内容について発表する機会を設け、プレゼンテーションや質疑応答に必要な能力の涵養を図っている。

（基礎医学 TBL）

本年度も 3 クール各 5 回にて授業を行った。本年度新たに行った取組みは、

① これまでは、1～4 回にかけて自学してもらい、5 回目にプレゼンテーションとしてきたが、試験的に、一つのクールにおいて、1～3 回を自学、4 回目にプレゼンテーション、5 回目に担当教室教授に当該分野の面白さをお話しいただいた。授業時間短縮に伴い、基礎研究の面白さや重要性を伝える機会が減少していたこともあり、3 回かけて当該分野について自学し、ある程度分かるようになった時点で最先端の話を聞くという試みは、多くの学生に好評であった。来年度はこの方法を基本として授業を行い、学生に対する調査を行う予定である。

② 自学課題の与え方を変更した。具体的には、その回に解くべき課題を授　業の初めにまとめて渡すことをやめ、2-3 分割して渡すことにした。これにより、学生がグループ内で課題を分担して行うことにある程度のブレーキがかけられ、学生が課題に積極的にかかわらざるおえない環境を作った。

２. Computer Based Test(CBT)、Objective Strctured Clinical Examination(OSCE) および AdvanecOSCE について

今年度の CBT は平成 26 年 2 月 11 日（土）に行った。実施方法、合格基準は例年通りであった。OSCE は平成 26 年 2 月 16 日（日）に、これも例年通りに実施した。

Advanced OSCE は平成 25 年7月 20 日（土）に実施した。

３. その他、本講座で担当した講義等について

- 医学部新入生合同ゼミナール：1 年次

　保健学科との合同にて行なう少人数グループ学習で、医学教育学講座は補助的に関与した。「より良い医療」について議論を行ないつつ、医師を目指す「医学科」と、看護師・臨床検査技師・理学療法士・作業療法士などを目指す「保健学科」との間で、チーム医療の重要性について学んだ。

- 臨床医学入門 I（早期体験実習）：2 年次

　医学教育学講座が中心となり、1）学生が個別に外来患者さんに付き添わせてもらい患者の立場から医療現場を知る「外来患者体験実習」と、2）信大病院の各部署を訪問し医療を支える各部門の協力関係を理解する「病院内訪問実習」の2本立て授業を行なった。外来患者体験実習後の体験報告会では、「将来医師として果たすべき役割とは何か」につ）いて熱心な討論および発表が行なわれ、「理想の医師像」から「患者さんの心情」、「病院における患者さんの個人情報管理の重要性」に至るまで、学生同士が様々な意見交換をし、相互理解を深めた。病院内の部署訪問実習で学生は、病院内では学生の身分であっても将来の医師としてふさわしい身なり・行動・礼儀作法が求められていることを改めて認識した。また実習後には最も印象深かった部署の職務状況についての見聞をレポートとして提出した。

- 臨床医学入門 II：3 年次

医学教育学講座が中心となり、例年行なっている基本的な医療面接方法や診断学について学習する授業である。

新カリキュラムの核である「参加型臨床実習」の実施に対応するために、本年度から学生の臨床推論能力の早期獲得を促すことを目的に、講義内容を大幅に改編した。具体的には、授業の一部に少人数グループ学習法を採用し、実際の症例に基づいて、患者さんの主訴から疾患を診断することを学生に求めた。

また新たに「診療録(カルテ)の書き方」についての講義を取り入れ、病院内における患者の個人情報保護についての学生教育にも力を入れた。

- OSCE 集中講義：4 年次

5 年次に行なわれる病院内での臨床実習（クリニカルクラークシップ）に向けて、診察手技や医学生としての態度等を総合的に身につけることを目的とする集中講義である。医学教育学講座が中心となって準備し、授業を行なった。

また、来年度からの信大病院での学生用電子カルテの導入を鑑み、新たに「診療録（カルテ）の書き方」および「電子カルテ閲覧に関する自己管理」についての授業を医学教育学講座および医療情報部とで行なった。

また本年度から学生向けの常設のスキルス・ラボが稼動した。講義が始まる早朝や放課後に多くの学生が自主的にスキルス・ラボに集まり、シミュレーターを利用して積極的に基本手技を学ぶ姿が見られた。主に医学教育学講座がスキルス・ラボでの学生の指導にあたった。

- 臨床決断・社会医学：6 年次

臨床症例の問題点、キーポイントを抽出し、鑑別診断、治療の選択、予後の予測などについて学ぶ講義であり、医学教育学講座が中心となって準備を行なった。

- 選択臨床実習：6 年次

学外の教育協力病院のご協力をいただき、学生による患者受け持ち制度を導入し、指導医の指導の下で臨床の現場で学生が主体性をもった参加型臨床実習であり、医学教育学講座が中心になって準備を行なった。毎年、実習中に医学教育学講座が各病院を訪問し、担当医師および学生からヒアリングを実施している。

（参考資料あり）

Ⅲ.その他の活動

1. 医学教育ＦＤ（Faculty Development）

FD（Faculty Development）とは、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みの総称であり、医学教育学講座は学内外を問わず様々な医学教育FDを主宰し、また、参加することで県内全体の医学水準を引き上げることに貢献している。

（医学教育 FD）

新大学教員に向けた医学教育 FD であり、平成 23 年からは新人（昇進）教員の研修の一環と位置づけ、医学教育の意義や授業の運営方法、試験問題の作成法など実践的な内容となっている。

平成 25 年の医学教育 FD は、講師に医療系大学間共用試験実施評価機構理事の齋藤宣彦先生をお招きし、9 月 21 日（土）～22（日）にかけて穂高ビューホテルにて実施した。受講者は 23 名であった。

なお、医学教育 FD の参加者には、翌年の CBT 作問にかかる学内ブラッシュアップ委員をお願いしている。

（参考資料あり）

（出張医学教育 FD）

平成 24 年度に医学教育学講座が中心となって立案した「150 通りの選択肢からなる参加型臨床実習」が採択されたことを受け、今後は教育協力病院における臨床実習がさらに重要となる。このため、教育協力病院において学生を指導する立場にある諸先生方においても、最新の医学教育技法や、研修医と医学生の違い、医学生に認められる医行為などについて熟知していただく必要がある。一方で、多くの先生方はご多忙であり、また地理的条件などからも泊まり込みの FD にご参加いただくのは困難である。このため、こちらから教育協力病院に出向いて行う短時間の医学教育 FD（出張 FD）を平成 24 年から開始している。

平成 25 年度に行った出張 FD は別添のとおりであり、全 26 病院のべ 717 名の受講者にご参加いただいた。

なお、出張医学教育 FD はあくまで短時間の FD であり、より定着を図るためにも来年度再度多くの FD を開催する予定である。

（参考資料あり）

2. 成績評価方法についての医学教育 FD

学生への教育において、学習内容を事前に知らせること及び授業後にその能力を適切に評価することは、教育の内容と並び非常に重要な要素である。このため、信州大学高等教育センターの加藤善子先生をお招きし、成績評価方法についての医学教育 FD を平成 26 年 2 月 4 日（火）に開催した。受講者は 27 教室 32 名であった。

（参考資料あり）

３．ハワイ大学 SimTiki　SimulationCenter 研修

信州大学において、より安全かつ効率の良い臨床実習行うためには、最新の実習方法を学ぶ必要がある。このため、医学教育学講座が中心となり、各臨床教室より推薦された参加者 12 名をハワイ大学 SimTiki　SimulationCenter に派遣した。その後、研修に参加した教員を中心に、シミュレーション教育が以前よりも積極的に行われるようになっている（後述）。また、本研修に参加した教員から臨床教室の教授が誕生するなど、今後この研修の成果がより生まれやすい環境が整いつつある。

（参考資料あり）

４．ＳＰ研究会

4 年次に行われる OSCE および6年次に行われる Advanced OSCE において患者役を務めるボランティアとともに SP 研修会を開催した。研修会では、主に学生との模擬医療面接向け演技に脱血手の練習が行われている。OSCE 後には医学教育学講座主催の反省会を持用紙、問題点を洗い出したうえで次年度の研修に反映させている。また、平成 25 年度は森が SP ボランティア 2 名とともに医学教育学セミナーとワークショップに参加し、他大学の SP 等と意見交換をした。

（参考資料あり）

５．学会等への参加

主な参加は以下の通り。

CBT 関連

2013/3/29	平成 24 年度共用試験医学系 CBT 問題作成に関する説明会
2014/3/15	山梨大学 CBT モニター委員として出席
2014/1/15	山梨大学 CBT モニター委員として出席

OSCE 関連

2013/9/4	平成 25 年度共用試験医学系 OSCE 全国説明会参加
2013/9/14	平成 25 年度共用試験医学系 OSCE 評価者認定講習会
2013/10/27	平成 25 年度共用試験医学系 OSCE 認定者説明会
2013/12/14	千葉大学共用試験 OSCE 外部評価者
2013/12/14	千葉大学 OSCE 外部評価委員
2013/12/14	名古屋市立大学 OSCE モニター委員
2014/2/13	OSCE 事後評価小委員会
2014/2/22	愛知医科大学 OSCE モニター委員として出席

ワークショップへの参加

2013/11/2	第 50 回医学教育セミナーとワークショップ
2013/11/16-17	信州大学病院を中心とした医師卒後教育ワークショップ 2013
2013/6/21-23	信州蓼科医師卒後教育ワークショップ 2013 にて講演
2013/6/8-9	第 48 回医学教育セミナーとワークショップ in 京都大学
2013/8/9-8/10	第 49 回医学教育セミナーとワークショップ

ガイダンスへの参加・講演

2013/4/13	新規採用初期研修医向け医療倫理についての講義
2013/10/19	河合塾にて「医学部医学科ガイダンス」にて講演
2013/10/27	全国国公立大学医学部医学科説明会参加

学内行事

2014/1/24	5年生スキー合宿
2013/4/12-4/13	平成25年度医学部医学科新入生合宿研修

シンポジウムへの参加

2013/7/6	第 1 回日本医療シミュレーション教育学会学術大会
2014/2/20	H25年度文科省大学改革推進事業公開シンポジウム参加
2013/7/26-7/27	第45回日本医学教育学会大会

（参考資料あり）

６．成績不良学生との個人面談

今年度も、昨年度同様成績不良学生との面談を行うとともに、准講会に依頼し、5 年次生を中心にチューターになってもらった。

７．学生の健康管理

院内感染対策ガイドライン(日本環境感染学会)に準じて、附属病院の協力のもと、医学生の予防接種スケジュールを改訂した。

（参考資料あり）

８．屋根瓦交流会

附属病院卒後研修センターとの共催で、臨床実習・臨床研修説明会（屋根瓦交流会）を 12 月 20 日に開催した。例年は臨床研修制度についての説明を行ってきたが、今年は「屋根瓦交流」をテーマに、「研修医から選択実習・臨床研修を控えた 5 年生に向けて」、また「5 年生から臨床実習を直前に控えた4年生に向けて」、それぞれの生の声を伝えてもうよう企画した。説明会終了後には各診療科教員をお招きし、医学生ならびに研修医との懇親会を開催した。

（参考資料あり）

９．スキルズラボを用いたシミュレーション教育活動の活性化

近年、医学教育は、学生の臨床能力の向上と、患者の権利保護や医療の安全性との両立を迫られている。その解決策の一つとしてシミュレーション教育がある。本学ではシミュレーション教育の拠点であるスキルズラボの利便性をさらに高めるため、平成 25 年 7 月に基礎棟東棟にラボを移転して、随時使用可能な状態に整備した。新たなラボでは、当センターの担当教員と学務担当者が使用者を支援する体制を敷き、容易に講義や自習で使用できるようにした。

また、移転完了を報告するための記念式典を、平成 25 年 7 月 10 日に実施した。3 年生 4 年生および教職員が出席し、保有する機材の紹介を行ったほか、学生サークルが ACLS のデモンストレーションを行った。

講義や臨床実習での手技トレーニングに使用できるよう各診療科に働きかけ、臨床系 7 科、基礎系 1 講座のカリキュラムに組み入れられた。また臨床実習前集中講義においても積極的なラボでの自習を促した。さらに平成 25 年 10 月から当センター主催の課外企画として、「シミュレーターと仲良くなってスキルアップする会」を月 1 回開催した。身体診察や検査手技などを採りあげて、ワークショップ形式で診療技術の習得を目指した。

これらの活動の結果、平成 25 年度後期のスキルズラボ利用者は延べ 296 名に達した。来年度以降も引き続き、学生および教員に向けてスキルズラボおよびシミュレーション教育を積極的に活用するよう促していくほか、使用を支援していく。

（参考資料あり）

１０．白衣授与式

平成 23 年度から、プロフェッショナリズムの涵養と、病院実習における学生の標準的な態度を提示することを目的に、臨床実習前の 5 年次生に対し白衣（上下）を付与している。今年度は、平成 25 年 3 月 23 日（土） に開催し、豊岡父母会長のご挨拶に続き、福嶋学部長から 5 年次生に激励の言葉と白衣が授与された。

１１．各学年ガイダンス

平成 25 年度より、年度の初めに改めて医学部に入学した時の初心を思い起こしてもらうとともに、倫理、生活、学習に関する諸注意をすることで、医学生としてふさわしい態度を身に付けてもらうことを目的に、すべての学年でガイダンス（新学年ガイダンス）をおこなった。この取り組みは、来年度以降も続けていく予定である。

Ⅳ.学生の動向

1. 入学試験関連

平成 25 年度入学試験

選抜方法:推薦入試・一般入試(前期日程・後期日程)

区分	募集人数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
推薦入試	20	47	47	20	20
前期日程	55	348	299	56	55
後期日程	45	1065	492	49	45
計	120	1460	838	125	120

2. 国家試験関連

第 108 回医師国家試験は、平成 26 年年 2 月 8 日(土曜日)、9 日(日曜日)および 10 日(月曜日)の日程で行われた。

	受験者数	合格者数	合格率
信州大学医学部全体	109	97	89.0%
(うち新卒)	95	86	90.5%